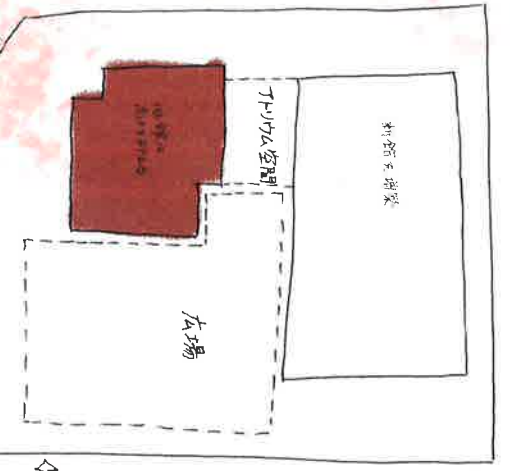
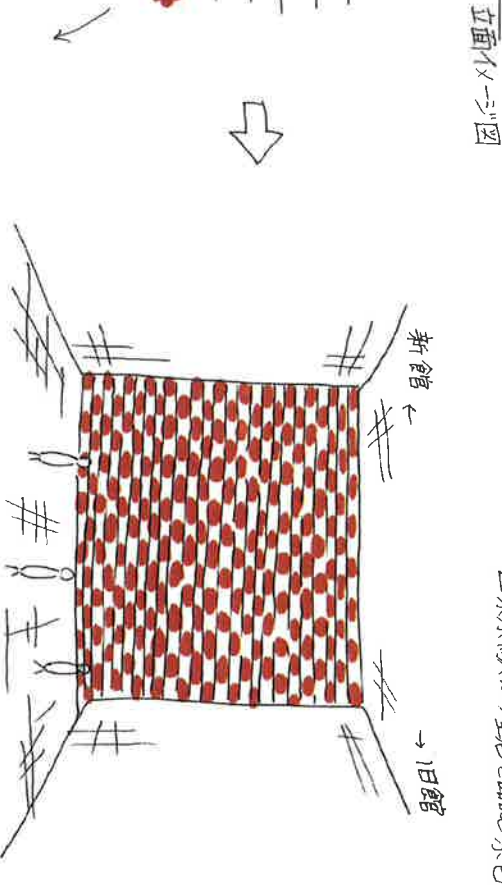
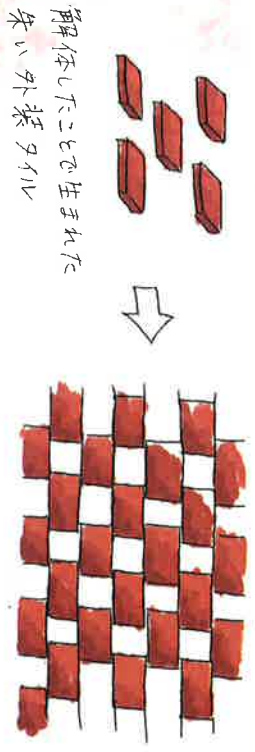
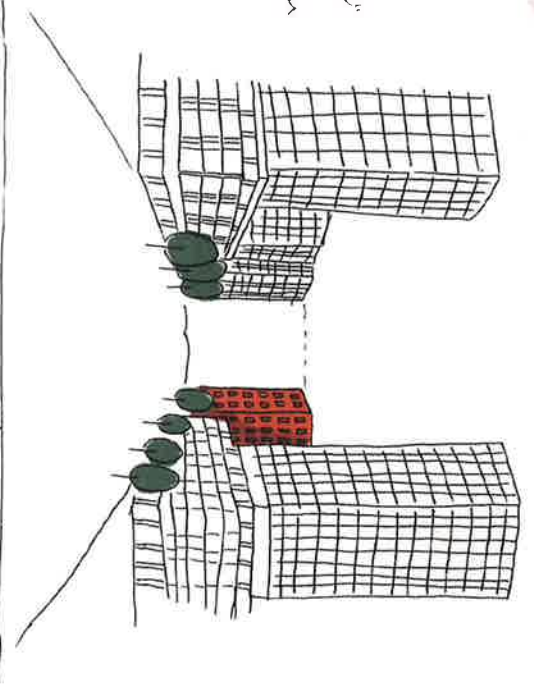
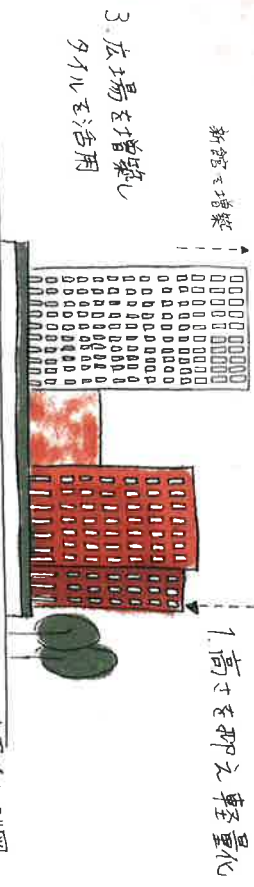
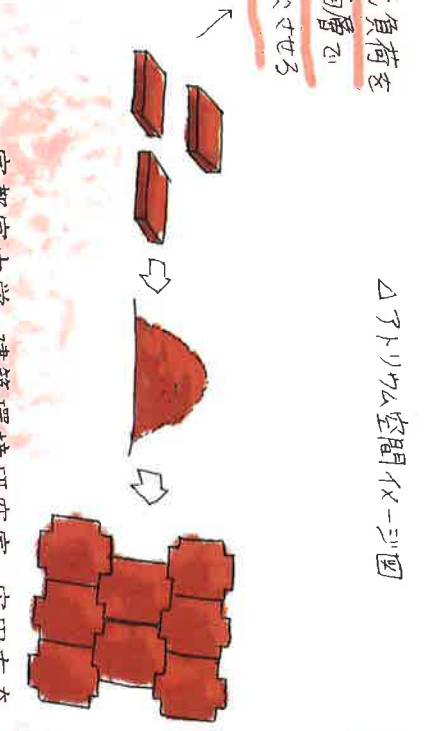


# 朱イイ記憶

東京海上ビルディング"存続のための改修案として、高さを抑えて軽量化すること、新館と旧館を繋ぐ連絡通路兼了りつかい空間を実現すること、敷地の一体化により広場を増築し、公共スペースを人々に開放すること、敷地の超高層ビルを都市に実現したいという前川氏の意思を継ぐこと、東京駅と同じ朱い色をここに残し、この建築が実現するまでの歴史が"ながらたことにされた"ように... という想いをコンセプトに考えました。



△平面イメージ図  
解体して生まれた朱イイタイルを、廃棄せずに活用することで、環境負荷を低減するだけでなく、元々超高層で、あたたかという記憶を人々に思い出させることを期待する。



△了りつかい空間イメージ図  
公共スペースを人々に開放するための超高層ビルを都市に実現したいという前川氏の意思を継ぐ。敷地を一体化し、既存の広場を拡大。広場には既存のタイルと同様の形を整形する。

1. 建物の軽量化と景観改善  
東京駅から皇居方面を臨む景色に左右対称となる高さになるように高さを抑える。高さを抑えることで建物自身から軽量化され、耐震性が向上し、災害に強くなることを期待する。

2. 新館と旧館を繋ぐ"了りつかい"空間  
連絡通路として設け、建物の利便性を向上させる。ガラス面に、格子状に重ねたタイルを敷き、日射遮蔽と外部からの視線を遮る効果を期待する。

3. 広場を増築し、タイルを活用